



聴覚障がいは、聞こえにくい、あるいは聞こえない状態のことをいいます。
 聞こえ方は人によって違いがあり「ほとんど聞こえない」「聞こえにくい」など様々です。生まれつき聴覚障がいのある人もいれば、後天的に聞こえなくなった人もいます。
 聴覚障がいは、パッと見ただけでは分かりにくいので、必要な配慮が受けられなかったり、心ない言葉をかけられたりすることもあります。
 私たちのほんの少しの気配りで、聴覚障がいの人たちの不安を解消することができるかもしれません。
 今回のテーマは「聴覚障がい」。障がいの有無に関わらず相手に伝わりやすい伝え方・コミュニケーションの方法や、配慮できることについてご紹介します。

補聴器

補聴器は、聞こえの低下を補う医療機器です。人との会話、電話やインターホンの音、外出先での車やバイクの音など、聞こえないと困る音を大きくして、聞こえるようにしてくれます。



最近の補聴器には、入ってきた音をただ大きくするだけではなく、音を加工して聞き取りやすくする機能まであります。

耳マーク

耳マークは、「耳が不自由であることを自己表示するためのマーク」です。



このマークを示す方と出会ったら、ゆっくりと話したり、手話や筆談を用いたりするなどの配慮をすることが求められます。

耳の聞こえない／聞こえにくい方とのコミュニケーション

コミュニケーションの方法は、障がいの程度やその人によって様々ですので、本人の望む方法を確認する必要があります。また、いくつかの方法を組み合わせることで、より伝わりやすくなります。

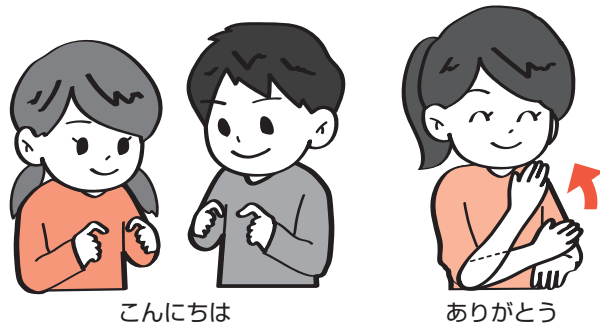
☆筆談

話す言葉をすべて書こうとせずに、簡潔に箇条書きにすると良いでしょう。図を利用するのも効果的です。長い文章だと理解するのに時間がかかって伝わりにくくなってしまいますので、短くわかりやすい文章を心がけましょう。

- ▶ 抽象的ではなく、具体的に。 ▶ 難しい言い回しを避ける。
- × とても時間がかかります。 × ご記入のうえ、捺印をお願いします。
- 1時間くらいかかります。 ○ 書いて、はんこを押してください。



筆談のイメージ



こんにちは

ありがとう

☆手話

手やからだの動き、顔の表情などの動作も合わせて表現する視覚的な言語です。

「こんにちは」「ありがとう」など、ほんの一言を手話で添えるだけでも気持ちが伝わります。大切なのは、伝えたい、伝えようとする気持ちです。

また、手話の中には、「あいうえお」などの50音を手や指の形で表現する「指文字」があります。これは、人の名前や地名などを伝えるときに使います。

☆表情で伝える 同じことを言っているのに、笑顔か無表情かで相手に与える印象は大きく異なります。

適切なタイミングでの相づちやうなずき、笑顔での反応などは、相手に安心感を与えます。

☆コミュニケーション支援ツール コミュニケーションを支援するための、パソコンやスマートフォンのアプリケーションがあります。音声認識で声を文字化することで、聴覚障がいのある方のコミュニケーションを支えるほか、外国語への自動翻訳など、様々なコミュニケーションをサポートします。

☆身振りで伝える からだで、物の形や動き、状態などの特徴を捉えて表現します。